

議会改革検討委員会



現在の議論の結果、

- 委員会の許可制から公開制に転換
- 委員会の会議要録と資料を県議会HP、議会図書室で公表
- 本会議・委員会の出欠状況・賛否状況を県議会HPで公表

などを行いました。まだまだ議会基本条例の制定など更なる議会改革にむけて議論を行っていきます！

滋賀県議会議員 成田政隆

滋賀県議会議員として二期目の一年目が過ぎました。多くの皆様からの温かいご支援を頂きながら、引き続き県政の発展のために全力で頑張つて参ります。

この一年間、東日本大震災や台風による水害など、大きな災害が起こったこともあり、防災に対する滋賀県の方性の議論を行いました。また医療・福祉分野における予防対策、クラウドを取り入れた行政機能の効率化や滋賀・びわ湖ブランドの価値の創造など、将来の滋賀県の姿を意識した議論も行つて参りました。

さて、先般、二月定例会が閉会し、その後、滋賀県職員等給与の地域手当分に関して、知事から審議のやり直しを求める再議がかけられ、臨時議会が行われました。執行部と議会、また議員間での議論の活発化は重要であります。しかし、その議論が政局に利用されることはあってはならないといえます。滋賀県の未来のために、しっかりと建設的な議論を行つていかなければなりません。

依然として、県の財政は厳しい状況であります。未来に笑顔あふれる社会を築くために、県政の課題に立ち向かって参ります。引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

ごあいさつ

成田
セイリウ

滋賀県議会議員

県議会活動
レポート
2012年春号



成田セイリウ2011年度活動アルバム

地域

地域のみなさまとともに、未来に魅力あるまちを築くために活動します。



越大津市長とともに、笑顔あふれる大津をつくります！



地元の防災訓練に消防団唐崎分団員として参加

安全
安心

東日本大震災の教訓を活かし、安心安全の滋賀を築いてまいります。



被災地の震災ガレキの量は想像を超える量でありました。復興の為に、広域処理に協力しなければなりません。



滋賀県警察航空隊 調査



三重県紀宝町台風12号水害 調査

子ども
若者

少子化が進んでいく中で、子どもの産み育てやすい環境の整備を！



ファザリング全国フォーラムinしがにスタッフで参加



全国各地の若手自治体議員で構成している自治体政策青年ネットワークの研修会。地域主権や世代間格差など、未来に責任のある政治に向けた議論を展開。

環境

びわ湖と山々に囲まれた自然あふれる滋賀を次代に引き継ぎます！



子どもたちとともに、様々な活動を行いました。自然から多くの学びが得られます。また子どもの発想力にはいつも驚かされます。



恒例のヨシ刈り。毎年刈ることにより、水の浄化に貢献します。

健康

健康づくりや予防医療の充実を図り、いつも元気に活動できる環境を！

9月定例会で取り上げたケアプロのワンコイン健診多くのメディアでも注目されています！



二順目の国体に向けて！埼玉県熊谷スポーツ文化公園 視察



びわ湖レイクサイドマラソンに参加

滋賀・びわ湖ブランドについて

▶ **成田** たくましく活力に満ちた滋賀の実現するために、地域資源を活用したブランド化戦略や魅力を観光資源として国内外に発信するなど、「滋賀」のブランド力の向上にむけた施策の展開がなされているが、滋賀県における「滋賀・びわ湖ブランド」の定義はどのようなものであるのか？

▶ **知事** 「滋賀・びわ湖ブランド」は、多様な価値がある、歴史・風土を「マザーレイク、琵琶湖」という言葉で象徴し、琵琶湖の持っている本来の「自然」の力、また、そこから滋賀が生み出してきた産品や商品の「もの」の力を借りながら、観光客の増加、ひいては地域の方たちの誇りを高める一体とした戦略をつくっていく必要がある。「もの」としての食べ物・産品、「できごと」としての観光、「こころ」としての誇り、これを立体的に、重層的に取り組んでいくことが戦略の基本になる。

▶ **成田** 平成二一年の一般質問で、「観光の戦略の一つとして、琵琶湖一周という観光資源の活用」を提案したが、「ピワイチ」(琵琶湖を一周)という基本コンセプトと、本県の観光資源を組み合わせ、滋賀県ならではの体験型観光プログラムを創造し、来訪者に滋賀の良さを継続的に体感してもらうことで、本県の観光ブランド構築を図るとしているが、「ピワイチ」に関して、観光ブランドとして、どのような可能性を持っており、どのように売り出していくのか？

▶ **知事** 「ピワイチ」の個性であり、大きな魅力の一つは、網羅的な一体性を持って、始まりから終わりまでの完結性があるということである。あわせて、「ピワイチ plus アルファ」で四季折々の自然の中で、例えば奥深い歴史、仙像など、様々な広がりや深まりを持った一体的な観光戦略が可能となる。認証制度のようなものができたら作りながら、5年、10年かけての戦略にしていきたい。



▶ **成田** 「滋賀・びわ湖ブランド」を県内外へ効果的な発信戦略のもとで行っていかなければならない。現在、ツイッターやfacebookをはじめ、時代とともに情報発信の仕方も多種多様な状況となっているが、どのような形で情報発信を行い、滋賀の魅力県内外に発信をされるのか？

▶ **知事** 個別商品・サービスと滋賀の地域イメージを連携させた情報発信を行うとともに、インターネット、フェイスブックの活用など、効果的な情報発信の手法について、検討。双方向の受発信のしくみをつくり、観光する方たち自身が発信をしていただく、参加型の受発信の仕組みも大変効果的ではないか。

▶ **成田** 滋賀のブランド力の向上を果たすためには、しっかりと広報戦略を考えいかなければならない。縦割りではなく、部局横断を行った上で、機能が果たせる推進体制が求められ、戦略的に広報戦略とシティプロモーション、企画を一元化した仕組みが必要である。各部局の統一した方向性を築き上げた上で、「滋賀・びわ湖ブランド」を発信する必要があるが？

▶ **知事** 「滋賀・びわ湖ブランド」の受発信には、関係部局で戦略の考え方を共有し、「マザーレイク、琵琶湖」をキーワードとしながら、相互連携が必要。国内だけでなく、国際的にも発信をするという意味では、関西広域連合における、文化、観光戦略の中に、琵琶湖をしっかりと位置づけていただく、さまざまな琵琶湖の持っている価値をいれ込むことによって、「滋賀・びわ湖ブランドネットワーク」の一層の国内外への強化が図れるものと期待。何よりも私たち自身がおもてなしの心を持って、私たち自身がこの滋賀を愛し、誇りに思う、それがこれからの「びわ湖ブランド」の大きな条件になっていく。

平成24年度 当初予算

平成24年度当初予算編成の特徴

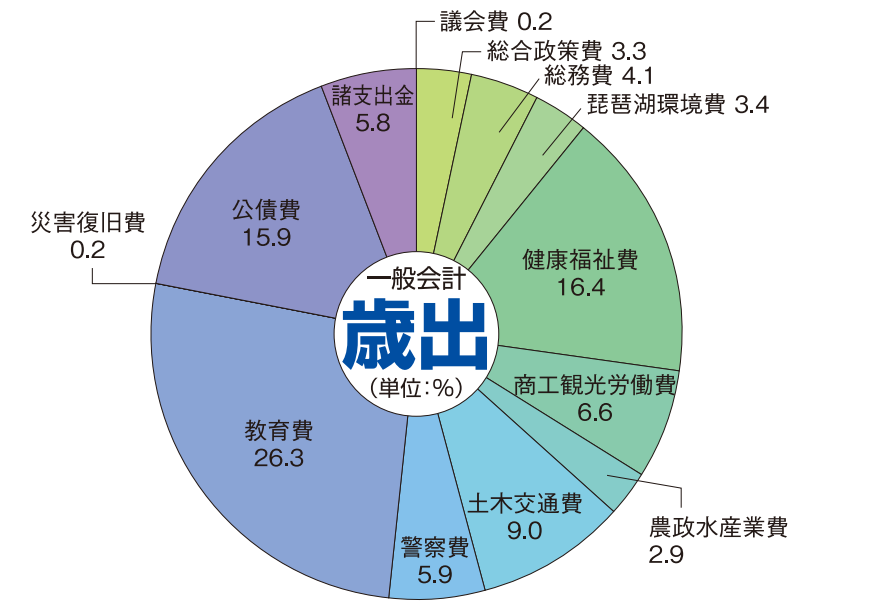
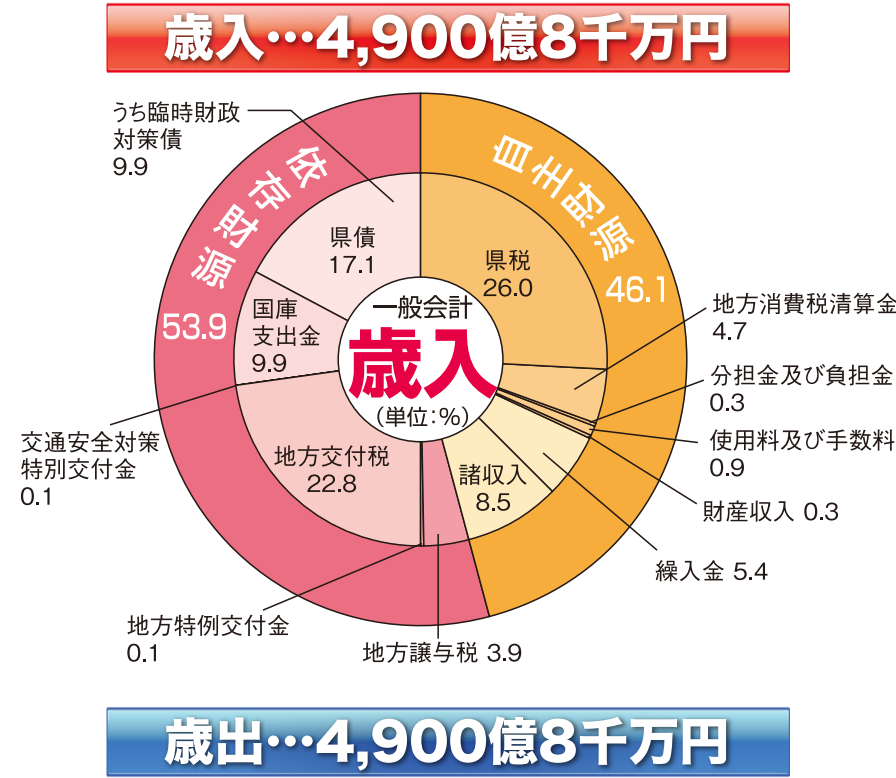
平成24年度は、「新たな基本構想」と「新たな行財政改革方針」に沿って取り組む2年目の年であり、滋賀の未来戦略（基本構想）の考え方に沿い、先駆的・戦略的な施策に重点的に取り組み、「住み心地日本一の滋賀」の実現を目指すことを基本方針としています。さらに、昨年設定した8つの重点テーマ（右記参照）に沿った施策の着実な推進に取り組み、今年度は昨年の東日本大震災をはじめとする情勢変化を踏まえた新たな視点を加え、予算編成を行いました。

平成24年度当初予算は、前年度と比べると、83億円、1.7%の減、予算規模としては、4901億円で、3年ぶりのマイナス予算となりました。5年連続で5千億円を下回り、引き続き緊縮型の予算編成となっています。

歳入面では、急激な円高等の影響により、県税収入当初予算額が前年度に比べ13億円減少することが見込まれ、その影響で、財源不足額は、計画策定時に比べ105億円拡大することとなりました。事業の見直しや人件費の対応で歳出の見直しを行っても財源不足額は250億円に膨らみ、それを補うために、財政調整基金、県債管理基金を取り崩し、残高は両基金あわせて50億円となり、県の借金にあたる県債残高は、年々増加し、引き続き厳しい財政状況となっています。

(単位:百万円)

		H24年度 当初予算	H23年度 当初予算	増減 (H24-H23)
予算総額		490,080	498,380	-8,300
主な歳入	県税収入	127,300	128,600	-1,300
	地方交付税	111,500	111,700	-200
	臨時財政対策債	48,400	49,800	-1,400
主な基金 (貯金)残高	財政調整基金	3,004	1,559	1,445
	県債管理基金	2,011	277	1,734
県債(借金)残高		1,041,900	1,028,200	13,700



8つの重点テーマ 主な事業 (★印は新規事業)

- (単位:百万円)
- 1

子育て・子育て応援

9.9億円
- 小児救急医療体制の充実・小児救急電話相談事業

107

●医療スタッフおよび空床ベッドの確保を支援するとともに小児救急電話相談を実施
- ほっと安心子育て支援事業

67

●育児疲れ・不安を抱える保護者が無料利用券を活用して、保育所等の一時預かりを必要な時に利用できるよう市町の取組を支援
- ★発達障害者地域自立生活システム構築事業

10

●高機能自閉症等の知的障害を伴わない発達障害者に特化した宿泊型生活訓練と就労準備訓練の昼夜一体的な取組みを行い、支援プログラムの開発や障害福祉サービス事業所向けの認証制度の研究・開発を進め、発達障害者が身近な地域で安心して生活できる体制を整備
- 2

働く場への橋架け

16.1億円
- おうみ若者未来サポートセンター運営事業

4

●若年求職者を対象に、実情に応じた相談から就職までの一貫した支援を行うため、ハローワーク機能を含む各支援機関を一体化した「おうみ若者未来サポートセンター」を運営する
- 女性の就労トータルサポート事業

39

●出産や子育てによる離職後の女性の再就職や社会へ一歩踏み出したい女性を支援するため、就労相談や仕事と子育ての両立支援相談、一時保育、求人情報の提供や職業紹介などの就労支援をワンストップで実施
- 男性の育児休業取得奨励金支給事業

3

●育児休業を取得する男性を雇用する事業主に対して奨励金を支給し、民間企業における男性の育児休業取得を促進する。
- アール・ブリュット推進事業

31

●障害のある人が安心して造形活動に取り組むことができるように、「(仮称)障害者造形活動支援センター」の運営支援や公募展開催等による作品の発表機会を増やす。
●NO-MA (ボードレス・アート・ミュージアム) の作品調査・保管、企画展開催等支援
- 3

地域を支える医療福祉・在宅看取り

18.4億円
- ★在宅医療福祉を担う看護職員確保対策事業

34

●職場復帰に向けた研修や子育て支援など、潜在看護職員の再就業を支援することで、在宅医療福祉を担う訪問看護ステーションや介護保険施設等の看護職員の確保・養成を図る。
- がん計画推進事業

81

●質の高いがん医療を提供し、ピアカウンセラーの養成やがんサロン実施によるがん患者への支援等を行うことで、総合的ながん対策を推進する。
- ★介護予防推進交付金

120

●介護予防基盤強化基金を活用し、概ね75歳以上高齢者を対象に、要介護度の改善を図るため、市町や団体が行う効果的な介護予防の取り組みを支援する。
- ★認知症地域連携検討

1

●認知症にかかる医療と介護の情報提供の仕組みづくりを図るため、関係機関等で情報を共有する認知症連携シートの開発等を行う。
- 4

低炭素社会実現

2.7億円
- 滋賀交通ビジョン策定事業

9

●環境負荷低減につながる持続可能な交通体系の構築する平成24年度 滋賀交通ビジョンの策定
- ★個人用既築住宅太陽光発電システム設置推進事業

100
- ★民間事業者節電・省エネ推進事業

34

●中小企業等に対して、省エネ診断の支援や省エネ設備整備への補助を行い、節電・省エネ行動を支援する
- 5

琵琶湖の再生

7.1億円
- 水草対策事業

116

●琵琶湖の水質や生態系の保全から、沖合部、沿岸部の抜本的な水草対策のために、水草の根こそぎ除去を専門家の指導のもとにモニタリング調査を実施し、刈り取った水草の農地等での有効活用を推進する
- 琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業

1

●琵琶湖淀川流域の小学生に対して、琵琶湖や水の大切さ・滋賀の歴史や文化を学習する機会を提供するため、京都、大阪から鉄道により北びわこ地域を訪れる小学生の体験学習を支援
- 6

滋賀の未来成長産業

8.7億円
- ★滋賀のクリエイティブ産業の振興に向けた調査研究事業

3

●本県の新たな成長の可能性として、地域規模に限定されない市場性を有し、将来性が見込まれるゲームソフト産業をはじめとするクリエイティブ産業の振興を図るため、可能性調査の実施や研究会での検討を行う。
- ★滋賀の感性を伝える「ココクール」事業

2

●消費者の感性に働きかける本県の商品やサービスを「選び」「魅せる」ことで本県の商品等のブランド価値を高める。選定を目指した事業者の商品開発などの努力を通じて、本県商業力を図る。
- 7

地域の魅力まると産業化

5.3億円
- 環境こだわり農業支援事業

251

●環境にやさしく、消費者により安全で安心な農産物を提供するため、環境こだわり農業への取組を推進する
- 滋賀県産牛肉の放射性物質検査事業

8

●本県産牛肉に対する放射性物質検査を実施し、近江牛等の牛肉の安全・安心を証明することで、消費者の県産牛肉に対する信頼を確保するとともに、農家経営の健全化を図る
- ★観光ブランド推進事業

7

●滋賀を周遊することを象徴的に表現する「ピワイチ」(琵琶湖一周)という基本コンセプトと、本県観光の特徴となる自然、歴史などの観光資源を組み合わせ、県内の観光施設・資源を周回できる体験型観光プログラムを創造し、本県の観光ブランド化を図る
- 8

みんなで命と暮らしを守る安全・安心

23.0億円
- ★危機管理センター整備事業

134

●災害対策拠点となる危機管理センターの整備および防災行政無線交信に向けた設計を行う
- ★原子力防災対策強化事業

5

●原子力防災訓練の実施等を行い、救助・救急計画、警備計画、緊急被ばく医療計画等を検討する
- ★環境リスクの評価と対応方策検討事業

14

●原子力災害の影響が県内に及んだ場合の環境への影響を予測・評価するとともにリスクコミュニケーション手法を検討する